1991.3.31

日本マラウイ協会（Malawi Society of Japan）機関紙

KWACHA

NO.6

Kwacha（クワチャ）はチェワ語で「夜明け」を意味します。

リロングウェに信号機設置

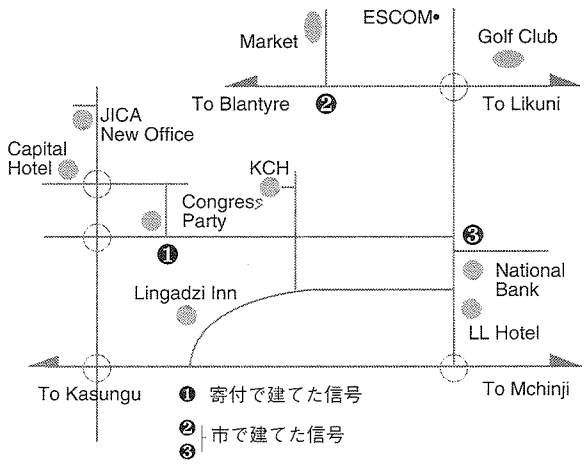
63年1次隊　河野　進

90年7月4日、リロングウェ・キャピタルシティのケニヤッタロードとユースドライブとの交差点（マラウイ議会党本部前）にマラウイの新首都リロングウェにおける第1号の交通信号機が誕生しました。

89年5月4日にこの交差点で発生した金次克典隊員（63年１次）の死亡事故をきっかけに、長く続く坂道と交差し、交通量の多いことなどにより、以前より危険であると言われていたこの交差点に信号機を設置しようという運動が、現地の協力隊員の間で起こりました。現地事務所の協力を得て、リロングウェ市への陳情などを続けた結果、設置案がまとまり、日マ協会を通じて行ったマラウイ隊員ＯＢ各位からの募金をはじめとする日本人関係者の善意により、信号機一式を南アフリカより購入し、設置にこぎつけたものです。

また、信号機設置については、地元リロングウェ市も積極的に取り組んでおり、この信号機設置に続いて、リロングウェ・オールドタウンのリロングウェ・マーケット／長距離バスターミナル入口と、ナショナルバンク・リロングウェ支店／リロングウェ郵便局の２つの交差点にリロングウェ市自ら信号機を購入して設置しました。

近代化と共に、交通量が急増しつつあるリロングウェ市において、これら３つの信号機が交通安全の一助として役だってくれることを祈りたいものです。そして、新しく建てられたこれらの信号機も、やがて二階建バスのようにリロングウェ市民の間に定着するでしょう。



10 DAILY TIMES THURSDAY JULY 12, 1990

Motoring

Jica donates traffic lights to Capital City

by Hazwell Kanjaye

THE Japanese International Corporation Agency(Jica) has donated a set of traffic lights worth K23,000 to the City of Lilongwe.

The robots, mounted on the Youth Drive and the Kenyatta Road ' T ' junction, have gone down in the traffic records as the city's first ever.

The City's mayor, Cllr. Ernest Mzandu, received the lights on behalf of the city's citizens from the Jica resident representative, Mr. Yoshihide Nakai.

Speaking after commissioning the lights, councillor Mzandu thanked Jica for the donation, which he described as ' invaluable ' because the spot was accident prone.

The mayor also said the donation was ' timely,' because it came at an independence celebration period when the city's streets were choked with traffic on transit to Blantyre, the main celebrations centre.

Councillor Mzandu said in appreciation of JICA's decision, the city council firstly decided to widen the Kenyatta Road at the junction and to trim earth borders (embarkment) that were hindering vision as motorists approached from Youth Drive.

"The council on its part has spent nearly K13,000", said the Mayor, who then thanked His Excellency the Life President, Ngwazi Dr. H. Kamuzu Banda, for his policy of contact and dialogue and good neighbourliness which has seen Malawi live at peace with many countries, including Japan.

The mayor then expressed the hope that motorists and pedestrians alike will obey the command of the traffic lights.

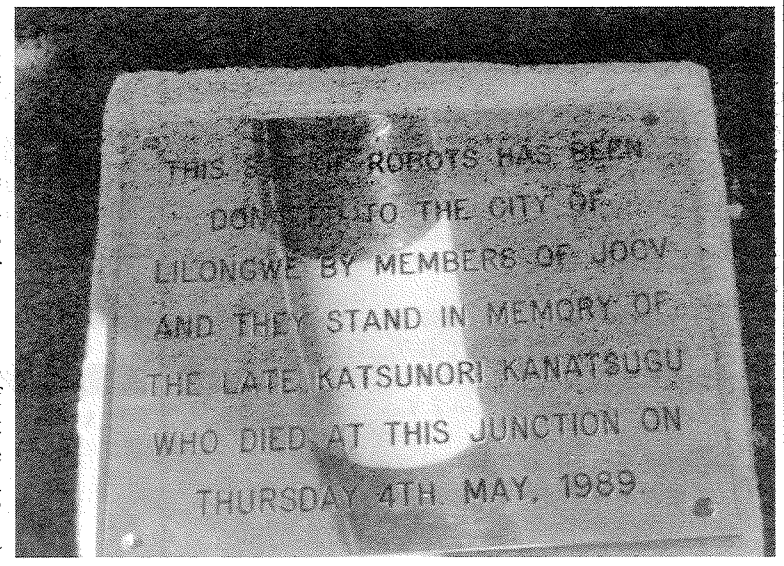
"I hope that careless drivers will not knock the lights down as they have been doing with street light poles all over the city," councillor Mzandu said.

The mayor told ' Daily Times ' that the council is looking into the possibility of mounting more robots at other two accident prone spots; the Malangalanga Road and Kamuzu Procession ' T ' junction, and at the Kenyatta and Kamuzu Procession Road ' T ' Junction.

In his remarks, Mr. Nakai said Jica staff and Japanese volunteers serving and those who served in the country have donated the robots in memory of the late Japanese electrical engineer volunteer, Katsunori Kanatsugu, who died at this Junction on May4,1989.

The late Kanatsugu, 24, was on this day riding a motorbike and unfortunately collided head on with a truck. He had been attached to the Water Department in Lilongwe.

▼信号機のそばに設けられた銘板



▲信号機のそばで、リロングウェ市長と河野隊員

調整員勤務を終えて

元　青年海外協力隊 マラウイ調整員　郡　昭治

平成2年12月14日、３年５ヵ月間のマラウイでの調整員業務を終え帰国いたしました。変化の少ないマラウイでも、私が隊員として派遣されていた10年前と比べるとそれなりに変わってきているものです。

まず、空港に着くと日本の地方の美しい空港に着いたような安心感を覚えます。日本の援助でできたもので、現在KLM、UTA、BA、南ア等が乗り入れています。空港からリロングウェ市内までは約20km、この道路に２年前、街灯がつきました。夜などは遠くの道につながる街灯がとても美しく、マラウイも変わったものと感じさせてくれます。

日本にマラウイから電話する場合、ダイヤル直通通話で、大体２～３回でつながります。そして現在では、それほど相手の声が遅れなくなりました。街の中を見てまわると、第一に人々の着る物が良くなったことに気付きます。そして誰もが靴をはいています。これは地方の街、ムズズ、ゾンバ、ブランタイヤにも言えることです。また、大統領の政策の一つと思われますが、都市の主要道路にはゴミがほとんど見あたりません。

リロングウェ市内には、現在３つの信号機が設置されております。第１号の信号機は、平成元年５月４日、63年１次隊、故金次克典隊員が交通事故により亡くなられ、二度とこのような事故がおこらぬようにとの隊員たちの祈りを込めて、隊員およびマラウイＯＢからの募金でできたものです。

現在、リロングウェにあるJICAマラウイ事務所は平成元年３月ブランタイヤから移転したものです。首都であり、国際空港があり、各省庁があるリロングウェへの移転は長年考えられていたものです。キャピタルホテルから車で５分のところ、３階建のビルの１階の新築のビルに移ることができました。

マラウイの道路整備は、年々進んでおり、北はカロンガまで舗装されました。コーチラインバス「デラックス高速バス」がリロングウェ～ブランタイヤ間を４時間、そして最近、リロングウェ～ムズズ間もコーチラインバスが走るようになりました。国内電話も日本の援助により整備され、カロンガ、サリマ、ンガブ等すぐにつながるようになりましたが、やはり雨期には不通になることが多々あります。

マラウイの人々の中にも研修等により海外に出たことのある者も増えてきており、自分たちの国を冷静に見ることができ、改革しようとする意識が生まれつつあるように思います。

現在、マラウイには教師隊員は派遣されておらず、医療関係の隊員も減少しており、ここ１～２年は80名位の隊員数を維持するものと思われます。職種も変わってきており、システムエンジニア、経済、映画等の職種が派遣されており、都市型隊員が増えてきています。日本の若者がそのまま海外で生活しているという感じが強く、何につけても「集団意識」が隊員の中に感じられます。

マラウイでの３年５ヵ月の調整員生活は、一口で言えば楽しいものでした。安心して生活でき、マラウイ人の中にも信頼できる友人ができ、帰国した隊員とも仕事を離れたつき合いが続いています。

今後、政権が変わって今のような平穏なマラウイが続くかどうか疑問ではありますが、何十年か後、もう一度行ってみたいものです。その時にはマラウイの人々が、政治、経済に対しても自由に発言できる国になってほしいものです。

平成３年２月18日

帰国報告

62年２次隊　久保田早苗獣医師　農業省畜産局配属
任期　87.12.16～90.12.15

1987年12月から1990年12月までの３年間、ブランタイヤの南に位置するチョロ獣医事務所に勤務した。ここでは、マラウイ24地区のうち３地区に分布する家畜一般の診療、病理解剖、食肉検査、妊娠鑑定および家畜移動許可証の発行等を業務とした。ほとんどの医療従事者が口にするように、現地スタッフの衛生観念の低さや、薬品および器具の不足は頭痛の種であった。

休暇には、よく一人旅をした。公共の交通機関を利用しての旅は、現地の人々の生活の一面に触れる意味でも楽しかった。彼らはとにかくたくましく、我慢強い。

あるとき、ルンピからチティンバまでローカルバスを利用した。山中に入ってブレーキの効きが悪いことが判明し、乗客全員が降ろされ、下りの山道を約１時間半歩かされるはめになってしまった。（どうして私がこんな目に･･･）と愚痴の一つもこぼしたくなったが、ムッとしていたのは私一人。ハプニングには慣れっ子の彼らにとっては、当り前のこととして捉えられていたのであろう。一日１本のバスがその日に来なくとも、不平を言わずバス停で夜を明かしてしまう彼ら。私も数度それを経験したが、特に寒い時期の親子連れにとっては大変なことだと思った。彼らには、「生命力」という言葉が似合う。

貧しいために生じる不幸が、マラウイにはたくさんあった。しかし、日本では豊かになったために生じる悲しい現実がある。勤勉な日本人が作り出してきた社会は、経済大国日本とまで言われるまでになった。その中で、休むに休めない状況にある勤労者たちには、疲労死というリスクまでできた。忙しすぎる世の中にあって、家庭内での会話も途絶えがち、学歴社会では受験戦争も高まるばかりで、ストレスとフラストレーションの渦に巻き込まれてしまう。自分たちが作り出した社会の中で、我々は身動きがとれなくなってしまった。少なくともマラウイには、自国のペースを守った形での発展を遂げてもらいたい。

マラウイの貨幣制

（月刊誌MONI 90年11月号より）

協力隊事務局　派遣第２課　小野修司（抄訳）

マラウイで貨幣が初めて使用されたのは19世紀後半の英国の治世下においてであった。英本国では、８世紀にその始源をさかのぼり、貨幣の基準単位を銀１ポンド（453.5g)においた歴史的事実がある。

1879年、リビングストンミッションのDr.ルイスが25ポンドの銀貨と7.1ポンドの銅貨を持ち込む以前は象牙、更紗、腕輪等が現地では通過がわりとして使用されていた。英貨がそのような物品と交換されることにより奴隷貿易が衰えるとの希望的観測もあったようだ。

継続的な英貨の持込みは1878年に設立されたAfrican Lakes Corporation (Mandala) による。それに加えマンダラは1880年にインドルピーを導入した。したがって同時に流通した２種類の通貨に、植民地政府は交換レートを設定せざるを得なかった。

また、1895年にドイツ人貿易商Mr. E. Sharrerは、自分の店舗（KABURA、ブランタイヤ）のみで使用できるコインを発行したが、これがマラウイ国内産の通貨の始源と言われている。

1896年には、英貨が国内で幅広く流通するようになり、1931年までにはポンド貨に統一された。その後、1939年にSouthern Rhodesia Currency Boardが設立され、ローデシア、ニアサランドの通貨政策に関与することとなり、英国の援助によりポンド貨を発行した。したがって、この当時は英貨とローデシア産のポンドが併存していた。その後、連邦の設立により1954年にCentral African Currency Boardが設立されThe Bank of Rhodesia and Nyasaland（1956年）により英貨の使命は終わった。

その後、連邦の解体により1964年７月にReserve Bank of Malawiが設立され、11月には５ポンド、１ポンド、１０シリング紙幣を発行した。そして、1971年２月15日にKwachaの誕生により、マラウイはその国固有の名を持った通貨を有することとなった。

☞その後、1990年には、なんと50K札も発行されたことを多くの皆さんは知らないこと思います。ちなみにこの札は、オープンマーケットでは使用できないほど高額のようです。

日本マラウイ協会からのお知らせ

ビデオ貸出のお知らせ

日本マラウイ協会では、最近のマラウイ国内を撮影したビデオ（VHS 120分３本）を会員の皆様に貸し出します。ご希望の方はハガキで当協会にお申し込みください。

マラウイ派遣20周年記念事業

日本マラウイ協会では、青年海外協力隊マラウイ派遣20周年記念事業として奨学金制度を発足させようと検討を始めました。これは、開発途上国の女性の自立の一助とするために考えられたものです。詳細は、決まり次第お知らせしますので、皆様のご協力をお願いします。

総会のお知らせ

日本マラウイ協会では、平成２年度総会を下記のとおり開催します。会員の皆様は、同封のハガキにて５月２日までに出欠をお知らせ下さいますようお願いします。

■日時　平成３年５月11日（土）　15:00～17:00
■場所　東京都渋谷区ヒルポートホテル　TEL 03-3462-5171
■議題　1.平成２年度決算　2.平成３年度予算　3.平成２年度活動報告
4.平成３年度活動方針　5.その他

大懇親会のお知らせ

日本マラウイ協会では、マラウイ独立27周年を記念して、平成３年７月６日（土）に大懇親会を予定しています。詳細は追ってご案内しますので、多数のご出席をお待しております。

入会のおすすめ

日本マラウイ協会（Malawi Society of Japan）は、日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。主旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。

入会方法

所定の入会申込書に各項記入の上、入会金（個人正会員の場合は1,000円）および年会費（同年額3,000円）の合計（個人正会員の場合は4,000円）とともに、下記にお送り下さい。

〒106東京都港区南麻布5-10-24第二佐野ビル701 日本マラウイ協会　TEL03-3304-5341

なお、入会金および年会費は下記の銀行口座または郵便振替口座へ送金してくださっても結構です。

■三和銀行　東恵比寿支店　普通口座255739　口座名義人　日本マラウイ協会会長　卜部敏男（うらべとしお）
■郵便振替　東京9-13125　日本マラウイ協会

また、協会規約その他については上記住所の協会宛お問い合わせ下さい。

会費納入のお願い

※会費は年3,000円です。
※上記口座をご利用下さい。